

TEL (075)314-5011 FAX (075) 314-5017



8p 演劇鑑賞のご招待・奨学生募集

初期研修委員会だより

京都民医連初期研修委員会では、看護師卒後1年目研修として「多重業務への対応演習」に取り組みました。入職後半年が経ち、この時期、現場では日常的に多重業務に追われ、不安を抱えている研修生は少なくありません。9月30日(火)と10月1日(水)、2回に分けて研修生32名が緊張しながらも元気に研修に臨みました。

この研修では複数の患者さんの援助の優先順位を考え、検温や急変対応などを実践していきます。患者役として、友の会のSP(模擬患者)研究会の協力を得て、また各部署の教育担当が評価者として参加します。

研修生は、様々なイベントに対しあわてることもありましたが、患者さんには丁寧な声かけをして対応していました。実施後には評価者と共に患者さんの安全・安心の視点で自己の実践を振り返り課題を明確にしました。演習の最後にはSPさんと交流会を行い「やさしく対応してもらえてよかった」「成長が見えました」「あきらめずにがんばってください」と励ましのエールや助言をいただき有意義な時間となりました。(初期研修委員会)

京都民医連では卒後1～3年目を初期研修期間と位置付けて、看護師教育を行っています。教育の企画立案・実践は「初期研修委員会」が担っています。初期研修委員会は各病院の師長・主任等により構成されています。



担当師長から看護学生さんへのメッセージ

看護学生の時には患者さん一人に対してじっくりかかわることができましたが、看護師になって複数の患者さんを同時に受け持つことで、丁寧なかかわりが難しいこともあります。患者さんは一人ひとり疾患も状況・生活背景も違いますが入院することで抱えておられる問題はそれぞれにあります。看護師が優先順位をつけているだけで、患者さんは自分のことをしっかり見てもらいたいという思いを持っておられます。忙しい中でも一人ひとりの患者さんの思いを汲み取り、丁寧な対応を行いながら、場面場面に適応した対応ができる看護師になれるようになっていっていただければうれしいです。

看護学生時代にしかできない、学習や演習を大事にしながら、臨地実習では生の患者さんの声や、看護師さんの看護への思いをしっかり聞いてください。そして、看護が楽しめるようになってください。

(第二中央病院 師長室 杉林)



京都民医連中央病院

看護りんりんチーム

このチームは日常の看護現場での倫理問題を現場の看護スタッフと一緒に考える中で、ケアの方向性を見出そうとするチームです。

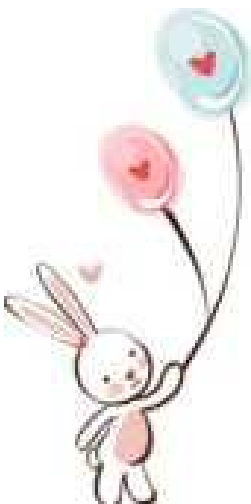
「倫理」ときくと何だか難しく聞こえるかもしれませんが、でも、“人間としての命、尊厳を大切に思う”看護の仕事の多くは倫理的な問題を含んでいます。

臨床の現場で、関係者の考えが微妙に違って、うまく決断できない。あるいは決断したのだけれど、何かもやもやしたものが残って「本当にあれが最善の判断だったのか？」と思い悩むこともあります。これまで現場が悩んでいるケースは、病棟師長やスタッフの判断に委ねられることがほとんどでした。

身近にある倫理問題を一緒に考えてみましょうというコンセプトで、中央病院看護部では2014年に「看護りんりんチーム」を立ち上げました。「看護倫理のことはいつでも気軽にお電話ください」という思いを込めたネーミングとなっています。チームに申し込みがあれば、3日以内に依頼の病棟にて、臨床倫理の4分割法を用いて、多職種参加でカンファレンスをします。看護りんりんチームのメンバーと一緒に参加して、客観的な視点で問題を整理し、方向性を一緒に考えていきます。倫理問題で大切なことは、一人で悩まないこと、誰かを悪者にしないこと、患者・家族の意志を尊重していくことです。

2014年1月から活動を開始し、コンサルテーション依頼は17件で、主な内容は予後予測の難しい高齢者へのエンドオブライフケア、食べることが困難になってきた高齢者の栄養、終末期の症状マネジメント、暴言患者への対応、などでした。臨床倫理の4分割法を用いて整理することで、治療方針の決定に苦慮する医療者の負担を軽減し、患者・家族の意向やQOLを考慮した医療やケアを提供することに繋がっています。また、このカンファレンスでは看護師だけでなく、医師や他職種の悩みも共有する場となり、互いの理解にも結び付いています。

日々、患者・家族の「思い」を語り合い、分かち合える職場を目指して、身近でタイムリーな相談の場として看護りんりんチームを活用して欲しいと思います。一緒に働くようになったら、ぜひ活用してくださいね☆





大切にしている看護

京都協立病院 4階病棟 佐古田麻里

私は、学生の頃から患者さんと接する時の「表情」を大切にしています。

患者さんの思いに寄り添う看護がしたいと思っているので、患者さんが話す言葉の裏にどのような感情を持っておられるのかということを考えながら患者さんと接するように心がけています。

患者さんと接するときは「笑顔」で話すようにしています。笑顔で接する事で患者さんも笑顔になってくださるのが嬉しいからです。そう思うようになったのは学生の頃、実習でかかわった患者さんに「あなたの笑顔を見ていたら安心する」と言われたことがきっかけでした。

しかし、患者さんの中には病氣と向き合いともに生きようと前向きになっておられる方もいれば、病氣を受け入れることができない方もおられます。ただ「笑顔」で接するだけでは患者さんの本心にも気づくことが難しいため、1人1人の患者さんが病氣に対してどんな思いを持っておられるのか、受け入れる事が出来ているのかを考える事で関わりとときの表情も変わってくると考えています。

1年目の頃、「笑顔で接する」とことと「笑う事」は別と教わりました。初めはどういう意味か理解できませんでしたが、多くの患者さんとののかかわりの中で「笑顔」で接することで患者さんは少しでも自分に心を許して下さり、思っている事を話して下さるようになりました。「笑っている」だけでは患者さんの事を真剣に考えているように感じられないのかもしれないと気づきました。

患者さんの思いに寄り添い、安心感を与えられる看護師になるために私は常に笑顔を心がけ、これからも患者さんに関わっていきたいと思います。



看護学生によるクリスマスハンドベルコンサート

京都民医連中央病院緩和ケア病棟

昨年12月20日に学生11名、職員4名でコンサートを行い、ハンドベル・ピアノ・歌で『きよしこの夜』『ジングルベル』『赤鼻のトナカイ』『ふるさと』を演奏しました。ベッドのまま聞いて下さる患者さん、手拍子しながら聞いて下さる患者さんもありました。終わってから、まっぼくりで作ったミニクリスマスツリーをプレゼントすると、「かわいいわ。大切にします。」と喜んでくださいました。少しでもクリスマス気分を味わってもらえたかなと思います。課題はレパートリー曲を増やすことです。





京都保健会内定者のつどい



12月に京都保健会の内定者のつどいを行いました。理事長ビデオレター、専務より法人紹介、各病院長よりビデオレターがありました。某院長の夢は「子ども向けの絵本を創ること」、某院長の趣味は「登山」…無心になれて、生きているな、という実感が湧いてくる、さらに某院長の趣味は「マラソン」で、丹後100キロウルトラマラソンに挑戦した…など、院長の人柄を知ることができ、院長を身近に感じることができました。第二部は初めて「ラフターヨガ」なるものを経験。講師は「笑いヨガクラブ わははの森@下鴨神社」のヨガインストラクターの林小絵さん。ストレッチのようなヨガから始まり、お隣の人とナマステのポーズで「ハハハハハ〜」と笑いながらアイコンタクトで挨拶して、次に「アハハハハハ〜」と笑いながら、両手を順にクロスして、ぐるぐる回ったり。そして手拍子しながら「ヤッター、ヤッター、イエーイ♪」、「いいぞ、いいぞ、イエーイ♪」…。声を出していくうちに、なにやら自然と楽しくなってきた、笑顔になっていきました。最後はジングルベルの曲に合わせて、全員が移動しながら笑顔でハイタッチしながら、歩きました。顔見知りでない人とも自然に笑顔で接することができました。もっとも日頃からいつも笑っているの、必要ない、という学生さんもいましたが(笑)。就職してストレスがたまりそうな時に、ぜひ実践してみてください。

後半は、ランチをしながら、ご飯がつまりそうですが、班対抗国試対策クイズをして、盛り上がりました。11問中、全問正解は4班でした。最後に各班から一人ずつ、国試・就職に対する抱負を述べて、全員合格！！を祈って願って、国試勉強がんばる決意を固めて、お開きとなりました。国試、みんなで励まし合いながら、祈り！！全員合格！！！！！！



ラフターヨガとは?? (～笑いヨガティーチャーの林小絵さんより～)

息を吐きながら「ハハハ…」と笑う動作を積極的に行ないます。笑うと横隔膜が上下し、副交感神経のスイッチがオンになり、ゆったりとした気持ちになります。また、息を吐きながら「ハハハ…」と笑うことでストレスの発散もでき、酸素の入れ替えも行なわれます。そして何よりも笑顔の交換や、それぞれの体操を通して心の交流が行なわれることで、言葉を超えた心の繋がりを感じ、とても嬉しい気持ちがわいてきます。自分が笑えば、世界が笑顔に変わります。★笑いヨガクラブわははの森@下鴨神社：毎月第1日曜日、11時～12時に、糺の森入り口「世界文化遺産」と書かれた石碑の前に集合して、行っています。(参加費100円です)



信和会第二中央病院・内定者のつどい



12/20(土)に第二中央病院の内定者のつどい＆全学年のつどいを行いました。午前中の内定者のつどいでは、看護部長より「民医連の歴史・病院の歴史について」、法人総務部長より働くということ、義務・権利等についてのお話をいただきました。これから働き始める皆さんへ「仕事を通じて」世の中が見える、しっかりやる、それにとどまらない覚悟を持って働くことが大事であること。“やらなければならないこと”+“できること”を「やりたいこと」にしていこうとすることでその結果、「働き甲斐」「生きがい」が生まれるのだということを話されました。看護師という職業は働き甲斐が持てる職業です！長く働き続けてみたいと、エールをいただきました(*^_^*)

低学年のみなさんには、交流会のお鍋作りをしてもらいました☆内定者のつどいを終えた卒年・低学年が合流し、各病棟師長さんたちを交えての鍋会では、看護学生委員会のメンバーの企画で作った国家試験クイズを解いて、お鍋のダシや具材を選んでいたり、クリスマスプレゼントがあったり…と、ワイワイと盛り上がりました♪ クイズはなんと、どの班も正解で、皆さんの勉強の成果が感じられました。内定者の皆さんは、国家試験合格に向けての頑張りを決意されていました(^_^)

京都民医連一同、4月には全員が笑顔でナース服を着ていることを願って！！★☆☆☆☆





医系学生・友の会との交流企画 第2回ごはん会♪報告



11月13日の夕方、医系学生「ごはん会」が京都民医連中央病院で行われ、医学生1人、看護学生3人、友の会5人と職員が集まりました。

前半は、医学生の希望していた「検査室見学」をしました。白衣に着替え、臨床検査技師さんから、主に検体検査室を案内していただきました。実際に、尿や血液の細胞を顕微鏡で見せてもらいました。また、細菌検査室では血液培養している機械や、細菌を培養しているシャーレを見せてもらいながら、仕事の説明を聞きました。

友の会は京都民医連の事業所を利用されている方や地域の方々が入会している組織です。安心して元気に住み続けられる地域づくりに民医連の事業所と協力して取り組んでいます。民医連の後継者養成にも協力して頂いています。

そしてごはん会♪他の学校の学生さんと自己紹介をして、医師や看護師を目指した理由などを話し、交流しながら、今回は「まちのきゅうしょくしつ」（お弁当屋さん）の栄養を考えた身体にやさしい食事（豚キムチ、高野豆腐とひじきの煮物、ゆず大根、春雨サラダ、サバの竜田揚げ）と、友の会の方が作って下さった「しょうが入り冬瓜汁」をいただきました。



好中球、好酸球、好塩基球！



【質問】末梢血管内の白血球には顆粒球・リンパ球・単球がありますが、顆粒球は、染色のされ方の違いによってどんな種類に分けられますか？

白血球、赤血球をはっきり見ることができて面白かったです。カンジダやグラム陰性球菌など学校で学んだことが実際に見られて勉強になりました。

どのように血液や尿検査が行われているのかを知ることができました。普段の学習と結びつく部分もあり、自分の知識が結びついていると分かり、学習意欲が湧きました。

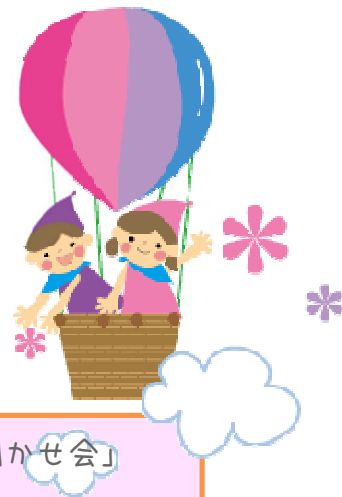


学生同士、和気あいあいと楽しい時間が過ごせました。お弁当もすごくおいしかったです。違う学校の方とも話せてよかったです。

今後も継続して友の会の方や医系学生さん同士の交流を図っていきます。友の会の方との交流も深めつつ、今回のアンケートに、したいこととして、「患者さん（高齢者）宅訪問」や、「手術室見学」、「リハビリテーション見学」が挙げられていたので、また企画を考えていきたいと思います！



働くママさんナースの 子育て支援



京都保健会看護部では、働くお母さんの子育て支援で、「えほん読み聞かせ会」を
11月29日（土）に開催しました。えほん館（京都市西京区桂にあるえほんのお
店）の店長^{はなだむつこ}花田睦子先生のお話を伺いました。



花田睦子先生

参加者は総勢8名（3か月と2歳のこどもも・・・）、花田先生は「えほんはこどもとお母さんやお父さんとのコミュニケーションの道具、ルールはありません、たのしかったと思えばいいんです」「えほんを読んでこどもに何か教えようとか考える必要はありません、こどもは自分で成長します」と語られました。どんなふうに読んだら喜ぶのか、どうすればじっと話を聞いてくれるのか・・・なんて考える必要はなかったんです。こどもと一緒に過ごす時間が大切なんです。えほんにとっても興味がわき、たのしい時間を過ごせました。参加されたお母さんたちの感想です。



*以前から絵本には興味があり、自宅にもいくつかありますが、どうやって読んであげればいいのかと思っていました。でも、ルールはなく、行ったり来たりして読んであげて良いというのを聞き安心しました。ついつい『こうしなければ』という風に思ってしまうので。今日は私自身とても楽しむことができました。

*今日の話聞いて『適当、ええかげん』でいいということがわかり安心しました。何度も同じ本を読んでほしいとせがまれ、『またかあ』と思っていましたが、気に入っているからそうやって言うてくるのだと思うと、楽しく読んであげたいなと思いました。



今後も、子育て中のお母さんが笑顔で働けるように、
看護 も子育ても楽しめるようなことを企画したいと思います。



えほん館



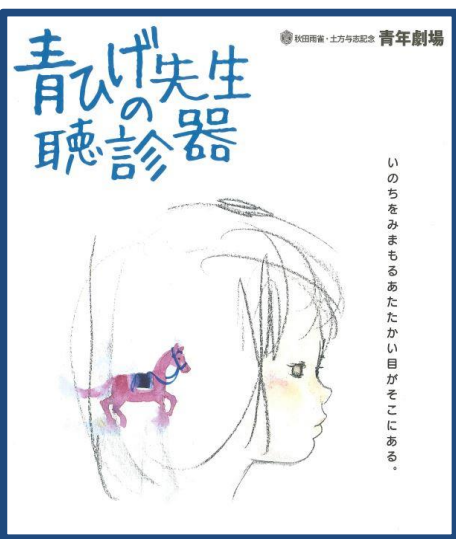
お母さんと一緒





青ひげ先生の聴診器

鑑賞のご案内



花里市の花里病院は住民の力で運営されている。2015年3月、院長室では今年も「市民まつり」に向け、職員劇「水戸黄門」の稽古が始まったが、医師・看護師不足の折、多忙で顔が揃わない。病棟には孤独な千代ばあさんの叫び声。今日も響き、末期ガンの青年は「パチンコしたい」とつぶやく。患者の人生に寄り添おうと知恵を寄せ合うスタッフたち。震災と原発事故の直後から、彼らも全国の仲間とともに、被災地支援を続けてきた。被災地での医療の役割は大きく、彼らの生き方にもまた大きく影響を与えていた。院長「青ひげ」の息子、研修医の太郎も被災地での医療を体験し、先端医療か僻地医療か進む道に思い悩む。この病院の研修医の彩乃も青ひげに憧れつつも進路を決めかねている。3・11後の日本で、どんな生き方を選択するのか。太郎と彩乃は語り合う。

ものがたり

青ひげ先生、再び。震災をこえて！
2011年3月11日、「青ひげ先生の聴診器」の上演期間中に起きた東日本大震災。頻発する余震と長引く交通の混乱、そして、日に日に深刻さを増していく原発事故報道の不安の中で、この作品は、その後の上演を中止せざるを得ませんでした。あの日からまる四年が過ぎる2015年春、震災を経験した青ひげ先生が、再び立ち上がり、日本の医療の今を問いかけ、日本全国を巡ります。

3月5日(木)

18:00 開場

18:30 開演

文化芸術会館

看護学生さんは無料でご招待いたします。担当者までお申込み下さい。
席に限りがございますのでお早めにお申し込みください♪

☆京都保健会	佐藤	kangaku@kyoto-hokenkai.or.jp	電話 075-813-5901 (代表)
☆第二中央病院	岩田	egg-nurse@ezweb.ne.jp	電話 070-6929-5923 (PHS)
☆京都民医連	日西	kangogakusei@kyoto-min-iren.org	電話 075-314-5011 (代表)

看護学生 奨学生募集中！

支給額 150万円～200万円

※授業料等に充当する事を条件にして、250万円まで

支給可能(返済免除制度あり)

→卒業後、京都民医連の病院・診療所に就職を希望する学生さんに貸し付けします。勤務の期間に応じて返済が免除されます。看護体験や奨学生のつどいなどいろいろな企画があります。

※京都府の修学資金や日本学生支援機構との併用も可能です。



==お問い合わせは下記の担当者まで==
年度途中からの貸付も可能です。ご相談下さい。

京都民医連事務局(担当:日西、長) 電話:075-314-5011
※右のQRコードからメールでお問い合わせ下さい。→→→

